

令和8年度 No.3

中南の

令和8年9月28日発行

社会教育

しごと・担当者のために
中南教育事務所
学校・地域の応援隊

県「令和8年度キャリア形成支援事業 ～大学生と青森の未来・自分の未来を“カタル”～」
【令和8年9月4日（金）大鰐町立大鰐中学校（大鰐町）】主 催 県総合社会教育センター
大鰐中学校第3学年生徒48名 運営大学生25名 参加

前半は大学生3名のカタリ手による体験談に真剣に耳を傾ける姿がとても印象的でした。後半は小グループに分かれて、大学生の司会で自分について振り返り、最後は、未来に向かって「今日からの一歩」を宣言しました。どのグループも大学生を中心に、和やかな雰囲気での交流を深めていました。

勉強や進路のことなど、将来について不安や悩みを抱えながら学校生活を送る中学生にとって、やる気や意欲を引き出し、チャレンジする心を育む、意義深いワークショップでした。



県「令和8年度 青森県社会教育研究大会」

【令和8年9月11日（金）県社会教育センター（青森市）】

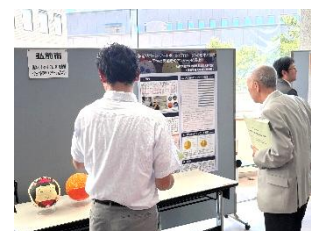
研究テーマ 活力ある持続可能な社会教育を目指して～豊かで住みやすい地域社会の創造～

開会行事で永年、社会教育委員としてご活躍された方々の表彰が行われました。中南管内からは、青森県社会教育委員（弘前市）工藤 貴子さん、黒石市社会教育委員 駒井 昭雄さんのお二人が表彰されました。おめでとうございます。

続いてNPO法人はちのへ未来ネット代表理事 平間 恵美 氏と株式会社 and more 代表取締役 久慈 美穂 氏から「みんなで考える『地域社会の再構築』～社会教育の視点で実践例を見る～」と題した講演が行われました。昼のポスターセッションでは、弘前学院大学文学部井上裕太研究室より、「弘前リボン・アートボール・プロジェクト」の発表が行われました。

午後の分科会では、弘前市中央公民館主幹兼係長 千葉 大慎 氏から、「学校と公民館の連携」について、地元大学との連携事業を中心とした発表がありました。

発表後は、参加者でグループワークを行い、「今後、公民館はどのような機関と連携すればよいか。」をテーマに充実した話し合いが行われました。



弘前「こどもアート体験ひろば2026」

【令和8年8月16日（日）弘前文化センター（弘前市）】

主 催 弘前市中央公民館

伝統文化親子教室事業として「こどもアート体験ひろば2026」が実施され、弘前市内の120名の児童が「茶道」「生け花」「習字」「津軽三味線」など11のブースに分かれて、講師の先生の指導を受けながら、真剣な眼差しで取り組んでいました。この体験が、将来、何かの形で文化的な活動への興味・感心につながることを楽しみにする事業でした。



「吊りごま」の絵付けと体験



「能楽」体験



「日本舞踊」体験



「お琴」体験

あおもり県民カレッジ「郷土の魅力再発見 弘前の文化財」

【令和8年9月8日（火）ヒロロスクエア3階 多世代交流室2（弘前市）】

講 師 田坂 里穂 氏（弘前市教育委員会文化財課 主事）



縄文時代の大森勝山遺跡をはじめ、江戸時代の弘前城、近代の旧第八師団長官舎など、時代の流れに沿って、弘前文化財について詳しいお話が伺えました。中でも、世界遺産である大森勝山遺跡の出土品の特徴や、青森県で弥生文化が大きく広がらなかった理由などの解説に対し、参加者は深く頷きながら熱心に耳を傾けていました。

田舎館「令和8年度村民レクリエーションまつり」

【令和8年8月23日（日）田舎館村中央公民館（田舎館村）】

地区対抗による「クイズ大会」「ユニカール大会」「ラージボール卓球大会」を中心に、「おはなし会ひまわり」による読み聞かせ教室、ヨガ体験、筋トレ体験、おさがり交換会等、多彩な催しを実施されました。また、アイス、コーヒー等の振る舞いもあり、競技参加者だけではなく、様々な年齢層に楽しんでもらえる工夫がされており、楽しい時間を過ごすことができました。



編集後記

10月から11月にかけて社会教育の教育委員会訪問が行われます。各市町村における社会教育の現状や課題について協議し、課題解決に資する時間になればと考えております。

よろしくお願いします。

文責：鈴木敏浩